



松竹梅は三友のやせむは
 世にも門松のよきす
 師代はあひて人もあはれ
 ながれけりそは日のめりみ
 すがしうをぬきふ心も
 子もあはれぬ心も
 世に自他をいそす社友の
 出せし向とけりめりて
 我向とすそその世に
 くらんは色もあはれ
 麗厚やうきうき
 すは花のなみたるや
 よわしは仙者の名をほふく

かしあをわきまて
 多しや回念しとあはれ
 かしはは松の葉白か
 春の春

春真

春の原まへに
 多しひすわ末ひ
 七種や 麓に記し
 春の春

歳暮

かりるものあり
 山里に片心
 あり年を人の
 年暮

丙寅春
 信州をこの里

